

応用物理学会シンポジウム 科学技術の人材育成および教育の取り組みとその活性化

主題：「世界に通じる創造性を育成－豊田少年少女発明クラブの運営と指導方法」

豊田少年少女発明クラブ 保田修 都築正孝 大島壽治

要綱：

豊田少年少女発明クラブは、1981年に将来を担う少年少女の創造性、科学的発想を育むことを目的に設立された。当時、日本は依然として高度成長の中にあり、育成課題を強く感じ、クラブの設立に尽力された方々の思いに心からの敬意を表したい。

運営は、市、企業、保護者、3者の寄付と会費より成り立つ。指導は教員OB5名からなる専任指導員、ものづくり企業OB10名からなるサポーター、現役の教員、公務員、企業従業員からなる147名のボランティア指導員の3者が分担。多分野の支援を得ているのが特徴である。

指導は、小1～6、中1～3の学年別クラス構成で、現状は940名のクラブ員。子どもの成長に合わせて年間カリキュラムを組み、学年別に教材や指導要領書を準備し、ものづくりと発想訓練を組み合わせているのが特徴である。今後は、技術動向を鑑み、プログラミング教室も計画中である。

子どもの成長を確認する目的で、春のOM世界決勝大会（※）参加、夏の北海道洋上研修と工作展開催、秋の全国チャレンジ創造コンテスト参加、冬・年度末のクラブ競技会開催を実施している。これらは、子どもの成長に大きく貢献している。

（※odyssey of the mind world final；年1回、各国が参加する頭脳オリンピック）

対外的成果は年々向上しているが、子どもが置かれるものづくり環境、科学的な発想や創造性醸成の場は、十分とは言えない。クラブ設立時の思いを日本全体が共有する必要を強く感じる。

【OM世界決勝大会】



【北海道洋上研修】



【クラブ競技会】

